



最初にお読みください

---

---

# CentreCOM® 8948XL リリースノート

---

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.J）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.9.1-07

---

## 2 本バージョンで仕様変更された機能

---

ソフトウェアバージョン **2.9.1-05** から **2.9.1-07** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

### 2.1 SHOW IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

SHOW IP ROUTE コマンドの出力に「Flags」欄が追加されました。Flags 欄には各経路の属性をあらわすフラグの状態が表示されます。現時点でサポートされているフラグは、該当経路が優先的に使用されていることを示す「S」フラグのみです（ただし、インターフェース経路には「S」フラグが表示されません）。

## 3 本バージョンで修正された項目

---

ソフトウェアバージョン **2.9.1-05** から **2.9.1-07** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 デフォルトルートを複数保持している状態でデフォルトルートの情報に変更があった場合、パケットがソフトウェアルーティングされることがありましたが、これを修正しました。

## 4 以前のバージョンで修正されていた項目

---

以下の項目は、ソフトウェアバージョン **2.9.1-05** のリリースノートに制限事項として記載されていましたが、実際には **2.9.1-02** で修正済みでした。

- 4.1 コンパクトフラッシュ上のディレクトリー名が長い場合、SHOW CFLASH コマンドが正常に動作しないことがありましたが、これを修正しました。

以下の項目は、ソフトウェアバージョン **2.9.1-02** のリリースノートに記載されていませんでしたが、実際には **2.9.1-02** で修正済みでした。

- 4.2 CREATE/SET CLASSIFIER コマンドの ETHFORMAT パラメーターに ETHII-UNTAGGED または ETHII-TAGGED を指定した場合、該当クラシファイアが正しく機能しない場合がありますが、これを修正しました。なお、本修正にともない、ETHII-

UNTAGGED または ETHII-TAGGED を指定したクラシファイアのフィールド使用量が増加しています。このため、**2.9.1-02** よりも前のバージョンから **2.9.1-02** 以降にバージョンアップすると、フィールドの不足により一部クラシファイアの設定が有効にならない場合がありますのでご注意ください。フィールド使用量は SHOW SWITCH コマンドの出力中の「Profile Usage」セクションで確認できます。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ソフトウェアバージョン **2.9.1-07** には、以下の制限事項があります。

### 5.1 RADIUS

 **【コマンドリファレンス】 / 【運用・管理】 / 【認証サーバー】**

- 複数の IP インターフェイス (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェイスを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

### 5.2 ログ

 **【コマンドリファレンス】 / 【運用・管理】 / 【ログ】**

CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。

### 5.3 SNMP

 **【コマンドリファレンス】 / 【運用・管理】 / 【SNMP】**

- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。
- プライベート MIB の fanAndPsPsuPresent において、電源ユニットが装着されていないという状態を正しく表現できません。Bay 1 (PSU1) 側に電源ユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トラंकグループのカウンター値が 0 のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターに

トランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。

- プライベート MIB の `atrMacBasedAuthPaeState` において、本来と異なる値を持つものがあります。
  - ・ `authenticated(5)` になるべき MIB の値が、`authenticating(6)` になります。
  - ・ `held(7)` になるべき MIB の値が、`aborting(6)` になります。
  - ・ `SET PORTAUTH PORT` コマンドで「`SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED`」を設定しても、MIB の値が `forceAuth(8)` または `forceUnauth(9)` にならず、`initialise(1)` になります。
- プライベート MIB の `atrMacBasedAuthControlledPortStatus` において、本来と異なる値を持つものがあります。
  - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が `unauthorised(2)` にならず、`authorised(1)` になります。
  - ・ `SET PORTAUTH PORT` コマンドで「`SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED`」を設定しても、MIB の値が `forceAuth(10)` または `forceUnauth(12)` にならず、`never(1)` になります。
- LC コネクタを持つ SFP ポートの `ifJackType` (ポート形状を示す変数。MAU MIB) が正しくありません (「`fiberSC`」となります)。
- プライベート MIB の `restart` の値を `Get Next Request` では取得できません。`Get Request` ならば取得できます。

---

## 5.4 NTP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「NTP」](#)

`SET NTP UTCOFFSET=NONE` を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「`Invalid zone or time for UTC offset.`」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、`SET NTP UTCOFFSET=UTC` (または `GMT`) のように指定してください。

---

## 5.5 TELNET コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「ターミナルサービス」](#)

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

---

## 5.6 BPDU フォワーディング

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

BPDU フォワーディング有効時、転送された BPDU のサイズが 68 Byte になります。

---

## 5.7 ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

Telnet クライアントとコンソールターミナルから同時にログインしているときに、Telnet クライアント上で ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンドを実行すると、入力結果が Telnet クライアントの画面上に表示されず、コンソールターミナルの画面上に表示されます。

---

## 5.8 LACP (IEEE 802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」

LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。

---

## 5.9 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。

---

## 5.10 スパニングツリープロトコル (STP/RSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリー (STP/RSTP)」

スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム (MaxAge) の分だけ長くなります。

---

## 5.11 マルチブラスパニングツリープロトコル (MSTP)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「マルチブラスパニングツリープロトコル」

- マルチブラスパニングツリープロトコル (MSTP) の使用時、ワイヤーレートの通信が行われていると、Topology Change が発生することがあります。
- VRRP と MSTP の併用時、エッジポートでないポートに対して EDGEPORT=YES (SET MSTP CIST PORT コマンド) の設定を行うと、切り戻し時に VRRP が正しく動作しない場合があります。これを回避するため、エッジポートでないポートには EDGEPORT=YES の設定を行わないようにしてください。

---

## 5.12 イーサネットリングプロテクション (EPSR)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「イーサネットリングプロテクション」

- 複数の EPSR ドメインを設定している場合でも、SNMP では直前に変更のあった 1 つの EPSR ドメインに関する情報しか取得できません。
- EPSR ドメインを削除した後も、SNMP では該当 EPSR ドメインの情報を取得できることがあります。

---

### 5.13 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

- ルーティングパケットと本体（CPU）宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース（FDB）のスタティックエントリーが機能しません。
- フィルタリング対象の MAC アドレスを持つ機器が、PORT パラメーターで指定したのとは異なるポートに接続されている場合、本製品から該当 MAC アドレスに宛てたパケットに対して、ACTION=DISCARD のスタティックエントリー（スイッチフィルタ）が正しく機能しません。

---

### 5.14 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。
- IPv6 QoS ポリシー用のクラシファイアにおいて、MACSADDR パラメーターが動作しません。

---

### 5.15 ハードウェアパケットフィルタ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルタ」

ハードウェアパケットフィルタとダブルタグ VLAN（Nested VLAN）の併用時、カスターポートで受信したパケットに対して、INNERVLANID、INNERVLANPRIORITY、INNERTPID パラメーターが機能しません（DISCARD を指定しても破棄されません）。

---

### 5.16 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB である AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効してから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- MAC ベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

---

## 5.17 ディレクティッドブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

特定 VLAN に対するディレクティッドブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF- FF-FF) 宛でのディレクティッドブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティッドブロードキャストパケットを転送できなくなります。

---

## 5.18 TRACE、SET TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- SET TRACE コマンドにおいて、MINTTL (最少ホップ数) に MAXTTL (最大ホップ数) より大きい値を指定してもエラーになりません。
- TRACE コマンドにおいて、パラメーター指定が正しくないときに表示が文字化けします。

---

## 5.19 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) にブロードキャストアドレスを指定してもエラーになりません。ローカル IP インターフェースに IP アドレスを割り当てる時は、割り当てようとしている IP アドレスがご使用のネットワークにおいて利用可能なものであるかどうかを確認してください。

---

## 5.20 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

---

## 5.21 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=OFF を指定しても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します。
- 隣接ルーターとの通信状態が「Attempt」(静的設定された隣接ルーターとの通信を試行中) であっても OSPF Hello パケットを送信しません。
- PURGE OSPF コマンドを実行しても、ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドによる設定内容は消去されません。これらを削除するには、DELETE OSPF REDISTRIBUTE コマンドを使ってください。

---

## 5.22 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

---

## 5.23 IPv6

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

ICMPv6 Time Exceeded パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの InTimeExcds がカウンタアップされます。

---

## 5.24 ルーター通知 (RA)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

IPv6 インターフェースがダウンしても、Lifetime フィールドが 0 のルーター通知 (RA) パケットが送信されません。

---

## 5.25 IP マルチキャストルーティング全般 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」

IP マルチキャストルーティング機能 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM) の有効時、多くのグループ (1000 グループ程度) に宛てたマルチキャストストリームを同時に送受信すると、CPU 使用率が 100% 近くになり、コンソールの反応が一時的に低下するなどの現象が発生することがあります。

---

## 5.26 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

---

## 5.27 PIM-DM/PIM-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシュすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください (デフォルトは 210 秒)。
- (PIM-DM) Prune 中に上流ルーターの Generation ID が変更されても Prune メッセージを再送せず、結果として、次の Prune メッセージを送信するタイミングまで不要なマルチキャストトラフィックを受信してしまいます。
- (PIM-SM) (S,G) null Register メッセージのパケットフォーマットが正しくありません。ただし、動作には影響ありません。

- (PIM-SM) すべてのポートがリンクダウンしている状態で ADD PIM BSRCANDIDATE コマンドを実行すると、警告メッセージが表示されます。

---

## 5.28 IGMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」**

Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

---

## 5.29 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」**

SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

---

## 5.30 PIM6-SM

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」**

Join/Prune Interval (SET PIM6 コマンドの JPINTERVAL) の設定を変更しても、Join/Prune Holdtime が変更されません。

---

## 5.31 VRRP

 **「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」**

ブリエンプトモード OFF かつ優先度 231 以上でバックアップルーターとして動作している場合、マスタールーターがダウンしてもマスターに移行しません。このような場合は、バックアップルーター側で VRRP を再起動してください (DISABLE VRRP → ENABLE VRRP の順に実行)。

## 6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

---

取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項です。

### 6.1 FAULT LED の 3 回点滅

 **参照** 「取扱説明書」 27 ページ 「ステータス LED」

取扱説明書には記載がありませんが、FAULT LED（赤）の 3 回点滅（3 回の速い点滅と約 1 秒間の消灯時間）は、「本製品内部のファン、あるいは、内部温度の取得に失敗した」ことを示しています。

### 6.2 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

### 6.3 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ（CF）上のファイルを起動時設定ファイルに指定することはできません。

### 6.4 弊社 CentreNET SwimRadius 使用時の注意

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品自身（コマンドラインインターフェース）へのログイン認証に弊社 CentreNET SwimRadius を使用する場合は、以下の点にご注意ください。

- SwimRadius は、Telnet で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept（認証成功）を返すとき、Service-Type 属性を付加しますが、同属性の値としてはつねに Administrative(6) をセットするため、SwimRadius によって認証された Telnet ユーザーは、つねに Security Officer レベルでログインすることとなります。
- SwimRadius は、コンソールポート経由で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept（認証成功）を返すときは Service-Type 属性を付加しません。本製品は Service-Type 属性のない Access-Accept を受信した場合は該当ユーザーのログインを許可しないため、コンソールポート経由のログイン認証を SwimRadius で行うことはできません。

### 6.5 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

---

## 6.6 NTP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「NTP」](#)

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

---

## 6.7 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

ユーザープライオリティー (802.1p) 6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。

---

## 6.8 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#)

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

---

## 6.9 拡張モジュール AT-MG8T

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

拡張モジュール AT-MG8T は 1000Mbps 通信のみのサポートとなります。コマンドで設定可能な通信モードは AUTONEGOTIATE のみです。

---

## 6.10 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)

送信ポートの帯域制限機能 (EGRESSLIMIT) と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング (WRR) は併用できません。

---

## 6.11 ポートトランッキング

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

---

## 6.12 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、ARP パケットの処理が行えないため、DHCP、SNMP、Telnet、IP ルーティングなど、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

---

### 6.13 MAC アドレス登録数

 **参照** 「取扱説明書」 143 ページ 「本製品の仕様」

取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K（最大）」と記載されていますが、正しくは「16K（最大）」です。

---

### 6.14 クラシファイアの割り当てについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

1 つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。

---

### 6.15 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください（デフォルトは 30KByte）。

```
SET QOS RED=1 STOP1=100k
```

---

### 6.16 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルターのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。

---

### 6.17 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

---

### 6.18 ICMP メッセージ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

---

### 6.19 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

---

## 6.20 BGP-4

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(BGP-4\)」](#)

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAX-PREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信ブルフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

---

## 6.21 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応しておりません。

---

## 6.22 PIM-DM/PIM-SM

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
CREATE CLASS=1 IPPROTOCOL=103
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS PRIORITY=7
```

---

## 6.23 PIM6-SM

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM6 パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM6 パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
SET SWITCH CPUTXPRIO=7
SET SWITCH CPUTXQUEUE=7
CREATE CLASS=1 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=86dd
CREATE CLASS=2 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-TAGGED PROT=86DD
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
ADD SWITCH HWF CLASS=2 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
```

---

## 6.24 VRRP とポート認証

 [「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」](#)

VRRP とポート認証 (Authenticator) は併用できません。

## 7 未サポートコマンド (機能)

---

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド  
ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。  
  
APPLETALK, CLNS, DHCP6, FIREWALL, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, L2TP, LDAP, LOADBALANCER, LB, MACFF, PKI, PPP, PPPOE, RSVP, SA, SSL, STAR, TACACS, TACPLUS, TEST
  
- 以下のコマンド (パラメーター)  
COPY  
DUMP  
MODIFY  
START/STOP/SET PKT  
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS]] [QUEUEPOINTERS]  
SHOW SYSTEM TEMPERATURE  
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]  
TRACE [ADDRONLY]  
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]  
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]  
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]  
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]  
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE=(ALL|UPDATE)  
PURGE PING TOTALLY  
ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG  
SET/SHOW SWITCH SOCK  
SHOW SWITCH TABLE  
SHOW SWITCH SWTABLE  
SET SWITCH PORT [JUMBO]  
SET SWITCH PORT [SPEED={xxxMHAUTO|xxxMFAUTO}]  
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST  
ADD VLAN PORT [UPLINK]  
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER  
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY=0..7]  
ADD/DELETE/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP  
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER  
ADD/SET/SHOW/DELETE IP SA  
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]  
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST]  
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL  
ENABLE/DISABLE IP ROUTE [CACHE]  
SHOW IP ROUTE [CACHE]  
SHOW IP CACHE  
SHOW IP CASSI  
SHOW IP ROUTE TEMPLATE  
SHOW IP ROUTE MULTICAST

SHOW IP POOL  
SHOW IP FLOW  
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER  
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING  
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE  
ADD IP ROUTEMAP [MATCHTAG]  
ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP;DHCPTMP;PD} [APPINT] [FILTER]  
[HINT] [KEY]  
ADD IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]  
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]  
ADD IPV6 FILTER [PRIORITY]  
DELETE IPV6 FILTER  
SHOW IPV6 FILTER  
SET IPV6 PREFIX  
SHOW IPV6 MULTICAST  
ADD/SET/DELETE DVMRP DLC  
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]  
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS  
SET ENCO SW  
SHOW ENCO CHANNEL  
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;USER;  
UTIL}  
ENABLE/DISABLE QOS DEBUG  
ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLCI]  
DELETE PIM INTERFACE [SRCAPABLE]  
SHOW PIM [STATEREFRESH]  
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]  
ADD/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]  
SET PIM6 [SOURCEALIVETIME] [SRINTERVAL]  
SHOW PIM6 [STATEREFRESH]  
CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]  
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]  
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]  
[NUMBER] [TYPE]  
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]  
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]  
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE]  
[TYPE]  
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE  
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE  
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE  
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS  
ADD/DELETE PPP ACRADIUS  
ADD/DELETE PPP VLAN  
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR  
ACTIVATE PPP RXPKT  
SET BOOTP MAXHOPS  
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ENABLE/DISABLE MSTP CIST PORT  
ENABLE/DISABLE MSTP DEBUG MSTI  
ENABLE/DISABLE MSTP MSTI PORT  
SHOW MSTP DEBUG MSTI  
ENABLE/DISABLE DHCP Snooping STRICTUNICAST  
ADD/DELETE IGMP Snooping VLAN RouterPort  
SET IGMP Snooping VLAN QuerySolicit

## 8 コマンドリファレンスについて

---

最新のコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.J）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>